

5.5 地形及び地質

学術上または希少性の観点から選定される重要な地形及び地質を対象とし、再生事業後の影響について、調査、予測及び評価を行いました。

5.5.1 調査手法

調査手法は表 5-43、重要な地形及び地質の選定基準は表 5-44 のとおりです。

表 5-43 地形及び地質の調査手法

調査すべき情報	調査手法	調査地域	調査内容
地形及び地質の状況	文献調査	事業実施区域及びその周辺	文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析により、地形及び地質の分布状況を確認しました。
重要な地形及び地質の分布、状態及び特性	文献調査	事業実施区域及びその周辺	文献から、表 5-44 の基準に基づいて重要な地形及び地質を選定しました。

表 5-44 重要な地形及び地質の選定基準

重要な地形・地質の選定基準
a. 「文化財保護法（昭和 25 年 5 月）」に基づき指定された天然記念物及び名勝 b. 「高知県文化財保護条例（昭和 51 年 4 月）」に基づき指定された天然記念物 c. 「世界文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（平成 4 年 9 月）」の登録基準に該当する地形及び地質 d. 「自然環境保全法（昭和 47 年 6 月）（自然環境保全地域）」の指定基準に該当する地形及び地質 e. 「日本の地形レッドデータブック第 1 集（日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 6 年に記載されている地形及び地質

5.5.2 調査結果

地形及び地質の状況の調査結果は、表 5-45 に示すとおりです。

また重要な地形・地質としては、早明浦ダム堤体から約 5km 離れた場所に、県指定天然記念物の「本山町汗見川の枕状溶岩」が分布しています。

表 5-45 地形及び地質の状況の調査結果

調査項目	調査結果
地形の状況	吉野川流域の地質は、中央構造線など大規模な構造線が東西に走り、北から和泉砂岩層、三波川帯、秩父古生層と 3 つの異なる地質帯が分布しています。構造線の影響を受け、地質は複雑かつ脆弱で、崩壊や地すべりの要因となっています。
地質の状況	早明浦ダムから南小川合流点付近までの左岸側斜面は、第四紀の隆起量と三波川結晶片岩類の地質を反映して急峻な地形をなしていますが、右岸側斜面は笹越・杖立山・笹ヶ峰を結ぶ山地に帯状に分布する御荷鉾緑色岩類を反映して比較的なだらかな斜面となっています。

5.5.3 予測手法

予測対象とする影響要因と環境影響の内容は表 5-46 に示すとおりです。

表 5-46 予測対象とする影響要因と環境影響の内容

影響要因		予測の基本的な手法	予測地域	予測対象時期等
土地又は工 作物の存在 及び供用	地形及び 地質の変化	重要な地形及び地質の分布を図示し、直接改変の程度が予測対象に与える影響について予測しました。	調査地域のうち地形及び地質の特性を踏まえて重要な地形及び地質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域	地形及び地質の特性を踏まえて重要な地形及び地質に係る環境影響を的確に把握できる時期

5.5.4 予測結果及び環境保全措置の検討

重要な地形及び地質の変化の予測結果は表 5-47 に示すとおりです。

表 5-47 地形及び地質の予測結果

項目		予測結果の概要	環境保全措置の検討※1
重要な地形 及び地質	本山町 汗見川の 枕状溶岩	高知県文化財保護条例にて天然記念物に指定されている「本山町汗見川の枕状溶岩」は、対象事業実施区域から約5km 離れており、直接改変されることはないことから、影響は生じないと考えられます。	—

※1 「—」は環境影響予測の結果、影響は小さいと考えられるため、環境保全措置の検討を行わない項目を示します。

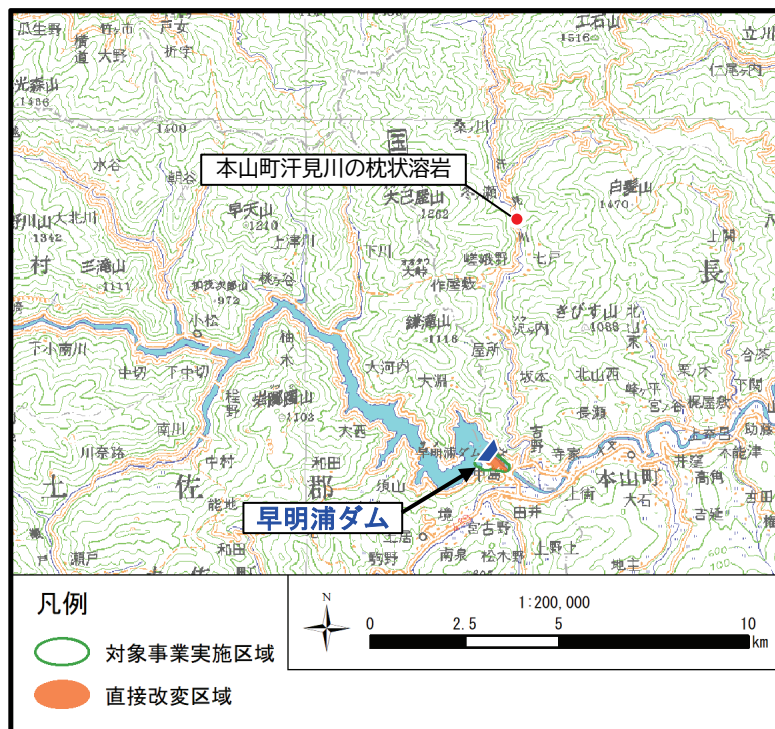


図 5-32 早明浦ダム周辺の表層地質図

5.5.5 評価の結果

地形及び地質は、「土地又は工作物の存在及び供用」における重要な地形及び地質について調査、予測を実施しました。

「土地又は工作物の存在及び供用」による地形及び地質への影響はないと考えられます。

以上のことから、地形及び地質に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されると判断しています。